

NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

第 21 回全国の集い in 北海道 2015 企画紹介文

企画名	
地域を支えるための卒前教育と卒後教育の連動 ～多職種連携・在宅ケアをキーワードとして～	
開催日時	2015 年 10 月 12 日 月曜日・祝日 午後 13:10～
対象者（対象とする職種や参加いただきたい方）	
医療系と福祉系の教育機関の教員と学生、家庭医、訪問看護師、介護支援専門員、保健師、医療・保健・福祉行政関係者、行政患者家族、市民	
企画概要／	
<p>在宅ケアには、医療・保健・福祉に関連するさまざまな職種がかかわっています。関係する職種が幅広いこと、しかもその人たちの所属している施設や団体も多数に分かれていることが、在宅ケアの特徴のひとつです。多くの職種が協力し合うことを「多職種連携」と呼びますが、在宅ケアには、まさに多職種連携が必要です。</p> <p>一方、それぞれの職種の人材を養成している機関では、その教育の大半を職種別に行っています。そのため、在宅ケアで連携する他の職種のことを学んだり、多職種と一緒に授業や実習に参加したりする機会はほとんどありません。</p> <p>このシンポジウムでは、在宅ケアに関連する各職種が、在宅ケアについて、それぞれどのような教育を受けているのかを学び合います。具体的には、医学、看護、社会福祉、介護福祉、理学療法・作業療法の、それぞれの養成機関を卒業するまでと、専門職者となった後の在宅ケアの教育について、各演者から発表していただきます。</p> <p>多職種連携を学ぶには、職種間の相互理解が重要であり、現場での実習や研修が効果的です。この企画を通して、各職種の教育で在宅ケアを学ぶことの課題について、特に、在宅ケアで多職種と連携する能力を教育することの大切さと難しさについて、考えるきっかけが得られるでしょう。</p>	